

詰将棋全国大会レポート（11）

第11回全国詰将棋大会

1995年5月

吹田市 千里市民センターにて

参加者 102名

詰将棋パラダイス 1995年4, 6, 7月号より

第11回全国詰将棋大会

(主催/全日本詰将棋連盟)

〔日時〕

平成7年5月5日(金)午後1時～

〔会場〕

吹田市千里市民センター(吹田市津雲台1-1-1)D2、TEL:06-834-0054

〔宿泊〕

好日荘(TEL:06-871-10132)

〔主な催し〕

第一部 出店コーナー

午後1時～午後3時

・裸の展覧会(裸玉展)

・大会記念詰将棋

・四人将棋&詰めて将棋広場

・指導対局(鹿野圭生女流)

・握り詰

・全詰連テータベース委員会
・チエスプロブレム
・頓珍館震災支援コーナー

第二部 式典(司会:明石六郎)

午後3時半～午後5時半

・来賓挨拶

・全詰連委員会報告

・看寿賞授賞式

・段位贈呈式

・プロ棋士参加詰将棋大迷路

・記念落語(桂九雀)

第三部 立食パーティー

(司会:柳田 明)

午後6時～午後8時

・記念詰将棋当選者発表

・握り詰優秀作発表

〔参加費〕

五千円(女性及び高校生以下は三千円)

但し、第一部、二部のみ参加は千

五百円。第三部のみ参加は四千円。

全国大会握り詰 <アマ連杯>

①特別企画です。日本アマチュア将棋連盟理事長の西村邦彦氏に握って頂きました。



これだけの使用駒で詰将棋を作ってください。

締切:4月15日消印(編集部宛)

大会当日展示、投票により優秀作を

決定(不完全作はボツ)。

②大会当日、また別の握り詰も行います。お楽しみに。

す。お楽しみに。

■呈賞:優秀賞、佳作賞等賞金総額5万円。(提供:アマ連)

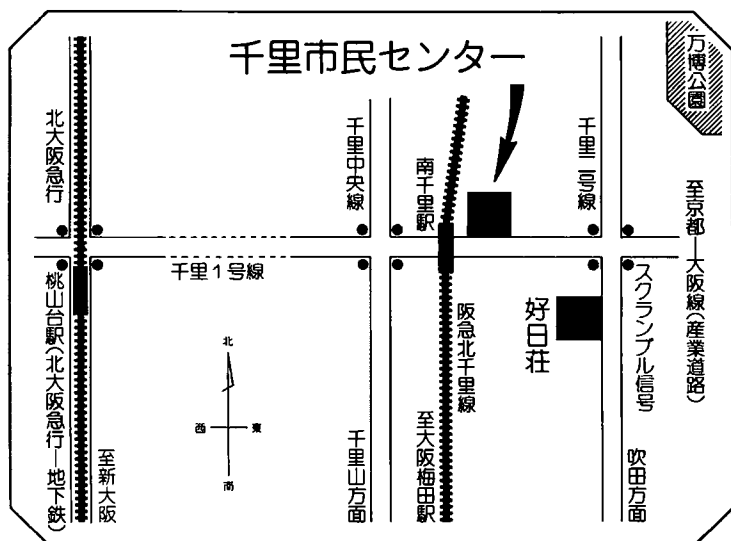
いずれも当日表彰を行います。奮って応募下さい。

1995年度 全国詰将棋大会

日時 5月5日(金) 13:00~20:00

会場 吹田市千里市民センター

- ①新大阪駅より地下鉄御堂筋線(北大阪急行)桃山台下車、東へ徒歩1km
- ②阪急梅田駅より北千里線(北千里行)南千里下車



平成7年度全国詰将棋大会報告

金子清志



全国規模の会合が毎年行われるようになったのはつい最近なのだが、それでも今では、何回目だったか判らなくなるぐらいに行事となっている。ここではその大会の模様を報告したいと考えていたのだが、結局のところ、その大会の前後や表裏の話など、みんな時系列で書いてしまうことにしよう。私書けばこういう報告になることは予想がつくことなので、ここは編集部の人選ミスとして、ご了承頂きたい。私事だが、今回はGW前半にひどい風邪をもらってきて、なおかつ三日に出勤というベストとは程遠いローテーションにあった。それでもなぜか、この会には来てしまうのである。

大会内容

■第一部(出店コーナー)

- ・握り詰大会(アマ連杯)
- ・パソコンによるデモ
- (データベース委員会)
- ・チェスプロブレムランド

(講師：若島正)

- ・四人将棋&詰めて将棋広場
- ・裸の展覧会

- ・指導対局(本間 博五段)

鹿野圭生女流初段)

- ・大会記念詰将棋

その他

■第二部(式典)

- ・挨拶 大会会長 岡田敏

詰将棋パラダイス 水上仁

日本将棋連盟福岡文吾八段

創棋会 安平昭二

詰将棋研究会 森田正司

- ・データベース委員会報告

門脇芳雄

- ・看寿賞授賞式

- ・段位贈呈式

- ・記念落語 桂九雀

- ・ゲーム(詰将棋大迷路)

■第三部(懇親パーティー)

(寄付)

秋葉原ラジオ会館(五万円、将棋墨酔

二冊)アマチュア将棋連盟(握り詰賞

金五万円)安平昭二(二万円)森信雄

六段(一万円)創棋会(一万円)門脇

芳雄(五千元)詰将棋研究会(賞品多

数)東京詰将棋工房(KOBO十冊、

他)石黒誠一(四人将棋三セット)



尽きない話題

五月四日(木)

最近是全国大会の前日に幹事会を行うことも恒例となつている。場所は、今回の宿泊施設としても使用する「好日荘」。私も午後六時開会には少し早めに駆けつけたのだが、もうほとんどの幹事が参集していた。

幹事会の議題は、宇佐見正さんの逝去に伴う新幹事選任、会計報告、各委員会の報告、明日の本会場についての最終打ち合わせ等であるが、このメンバーにしては珍しく(?) 整然と行われ、午後八時までには所要の議事を終了した。幹事会での議事・決定事項等は、全詰連からの報告として正式に掲載されるはずなので、詳細については、ここでは割愛する。

さて、幹事会が終われば、ご近所の方は帰り、宿泊者だけが残り。つまり

西から東から遠来の方が残ることになる(遠来の方同士で近所ということはあるが)。詰面で名前を存じ上げている、会うのはこの会合だけの、せいぜい年に一度かという人ばかり(住んでいる場所によつては、一生に一度ということもありそう)。ここぞとばかりに話が盛り上がらない訳がない。そしてこの場所はさしずめ前夜祭となつてしまふのである。

こういう場にいると、「やっぱりこいつらは普通の人間じゃねえな」と思つてしまふのである。何が楽しくてか話題が尽きない。せいぜい幹事会での弁当の残りくらいしか肴がないのに、大酒という程ではないが延々と酒を呑む(盤と駒が肴だという説もある)。宿の人が布団を敷くというのに、話の輪がなくならないので、物理的に布団を敷く隙間がない。何も言われないと風呂に入ることさえ気付きそうにない(以上の話に一番あてはまるのは私だとい

う噂もある)。素泊まりの宿でこんなに盛り上がる集団も他に類を見ないであらう。

それに、この段階では、看弄賞の選考結果、4月号で募集した握り詰作品が出ていたため、話題が尽きないのも無理はなかった。

さすがにこのまま続いては翌朝がマズイと思つて、私は十二時すぎには寝てしまつたのだが、残りの面々は一体いつまでやつていたのだろうか。

こんな雰囲気がお好みの方は、今後は前日泊もセットで申し込まれてはいかがでしょう。幹事会も別に秘密の打ち合わせをやっているわけではありませんから。ただし、色々コキ使われなくても責任は負いませんが。

ステーキ付き大ホール

五月五日(金)

天気予報は芳しくなかったが、朝起

きてみれば、詰将棋をするには何とも惜しいような良い天気である。後で聞いた話だが、未明にかなり強い雨が降っていたということ。

余談だが、私は恐ろしい程の雨男で、一泊以上の旅行に行けば必ず雨に当たる。例外は三回だけで、そのうち二回は冬の函館と秋田で、地元の人も減多に遭わないという吹雪。あとの一回は伊豆で、天候は何もなかったが、地震で石が降ってきて電車が止まった。

閑話休題。

全国大会などで天気を気にするのは、天気によって飛び込みの参加者数が増化するからである。荒天であれば出足も鈍り、好天であれば足が向くという具合で、経験的に二十人程度までの増減はあるようだ。「完全予約制アポなしお断り」というような堅い会合でないのは確かなのですが、事前予約はして下さいね。

会場は十時頃まで開かないというこ

とではあったが、会場セット用の道具を持って九時前には宿を出て、阪急線の駅の近くの喫茶店で朝食をとる。前夜は相当に夜更かししたであろうに、調子の悪い人は(見掛け上は)いない。十時少し前。事前準備のため、本会場である千里市民センターに行く。会場の方に無理を言って、早めに入れて頂いた。

メイン会場は、ステージ付きの大ホール。今までやった場所の中では、設備面では一番上等ではないだろうか。

長テーブルやら椅子やらを配置し、ワープロか何かで奇麗に作った出店の看板や「会場内禁煙」などの紙を掲示する。片隅では、門脇さんなどが詰将棋データベース実演の為にパソコンの現調に余念がない。

十二時少し前。会場設営も一段落したので、早めに昼食をするため、新ヶ江さん、藤沢さん、王泉さんと会場近くの喫茶店へ行く。そこで、四国か

らの遠征組の井内さん、来嶋さんと遭遇。せいぜい一年に一度会うか会わないかという人を相手に、話題は他にもあるはずなのに、なぜか最悪の暗い話題で盛り上がる。どうしてもそういう雰囲気させる今年である。

100人を越す参加

さて、会場に戻ると、受付の前では相当数の方が会場遅しと待ち構えていた。最終的には参加者総数が百二人となった。

〔参加者〕102人

栃木 阿部健治

群馬 北川明

千葉 飯山修・富永晴彦・安江久男・

吉田芳浩

埼玉 湯川博士

東京 大橋健司・金子清志・小林敏樹

・酒井弘格・新ヶ江幸弘・鈴木龍晴

・相馬慎一・富沢岳史・藤沢秀樹・

森田正司・山田康平

神奈川 門脇芳雄・橋本孝治・柳田明

山下雅博

静岡 佐野公男

愛知 東英男・近藤真一・関半治

三重 清水一男・田原宏・藤島五郎

滋賀 稲富享・林泰伸

京都 石黒誠一・稲川義明・上田吉一

金子義隆・久後生歩・周藤裕也

田代達生・筒井浩実・中村圭吾・平

田正・山田嘉則

大阪 明石六郎・池崎和記・石川武志

猪股昭逸・猪股賢文・魚住貴範

浦野真彦・浦野麻七美・浦野大地

崔然・桂九雀・鹿野圭生・岸原秀行

久保雅樹・高坂研・小島正司・小

林理・小山宏史・塩田洋・谷口均

内藤浩忠・中出慶一・長谷繁蔵・浜

田博・平井孝雄・弘光弘・福崎文吾

本間博・安国真紀夫・柳原裕司

大和敏雄・山本繁樹・吉田彰・若木

栄登・若島正

兵庫 喜多真一・前田裕昭・水上仁

宮島信昭・森信雄・安平昭二・山腰

雅人・山名厚

奈良 岡田敏・岡田節子・小尾二郎

和歌山 小川泰弘

岡山 高谷祥敬・平井康雄

島根 高見秀夫

山口 間鍋功・山本善章

香川 井内直紀・来嶋直也

高知 竹村孔明

福岡 西田弘・宗岡博之・八尋久晴

大分 神品和男

佐賀 太田慎一

関西流てんてんばりばり

午後一時半より予定を少し早めて開
場。今回は例年と違って、いきなり最
初にお祭りという趣向であるため、参
加者は会場各方面での出店(?)に集
まった。開会挨拶らしきものもなく、
挨拶もないのに「第一部」だという。て



んでばらばら」は、ある意味では関西
流か。

チェスプロブレム、データベース、
指導対局、その場で段位認定、四人将
棋&詰めて将棋などの出店があったが、
人気があったようなのがプロブレムと
指導対局。

プロブレムは店長が若島正さん。私は詳しく見ていなかったが、過去の名作を解説付きで鑑賞するという企画だったようだ。

指導対局は、本間博五段と鹿野圭生女流初段が三面ずつ。詰将棋マニアには将棋が好きな人が少ないというが、



▶鹿野女流初段の指導対局

眼差しは一樣に真剣だった。まあ、あれだけギャラリイがいたらギャグもできないだろうけどね。

そして意外にも(?)人気があったのが、当日に駒を発表した握り詰。作品応募は午後四時までという、真正正銘の握り詰だ。使用駒が書いてあるボードの前で、用意した盤駒が足りない程に何人の方が創作に没頭していた。データベースの実演の方はまだ人がいたが、四人将棋はギャラリイが少なくてかわいそうだった。

お待ちかね看寿賞発表

さて、午後三時から「第二部」の予定であるが、お遊びの方が収まりがつかないと見えて三時半からとなった。

先の阪神大震災で逝去された宇佐見さんへの黙祷。会長挨拶、来賓挨拶、幹事の紹介、各委員会の報告と続く。福岡の入尋久晴さんの挨拶では、来年

◀福崎八段のスピーチ



の開催地が九州地区(おそらくは北九州市)となることが発表された。また来年も参加してしまおうのだろうか、この私。

今回から、詰将棋段位の高段を取得された方は大会で授与式を行うことになった。今回は平井康雄さんと入尋久晴さんがそれぞれ六段、五段を取得され、この会場で授与された。

さて、お待ちかね平成六年の看寿賞の発表となった。今回は、短編賞を宗岡博之さん、中編賞を大橋健司さん、特別賞を浦野真彦さんが受賞された。長編賞は残念ながら該当なしとなった



いる。本件についても、受賞作等の詳細については発表記事をご覧ください。事前に資料を配布してあったので、会場内に歓声がこだまするようなことはなかったが、図面や手順を覚えていないと面白くないという面もあるので、これはこれで良かったと思う。

次はプログラムによると、全員参加アトラクションの「詰将棋迷路」ということであつたが、準備の都合ということで中止と発表された。前日にも説明をもらつていなかったもので、どういふ企画で何が準備不足だったのか、この段階では判らない。

続いて桂九雀さんによる落語。大阪の大会では定番となつたようだ。今回は題も詰将棋に関することということで、ヘボ噺家だつたらそれこそ揚げ足を取られそうなどころだが、そこは将棋も本格的にやつておられた九雀さんのこと、参加者を見事に引き込んでしまった。それにマクラも面白くて、ここにいるのがどういふ人種か、もうお見通しという感じさえあつた。

とはいうものの、こんな間にも握り詰をやってる人もいたりする訳であるのだが。

最後に皆さんが集まつて記念撮影。本来ゲストであるべきはずの大橋健司

さんが、やはり今年もカメラマンとなつた。

最後とは言ったがまだ午後五時すぎ。プログラムの項目がなくなつてしまつたが、第三部は午後六時から、と思つたら、「詰将棋迷路」をやるといふアナウンス。ルールは、会場に配置した八十一個の椅子を盤面に見立て、詰将棋を解いたら詰上りの玉位置へ移動し、9九または1九のゴールへ向かうというものであつた。

ところが、本間博五段ほかそうそうたる方々が競技に参加したものの、短時間でやる企画としては詰将棋の問題



▶ 桂九雀さんの落語

が難しすぎ、リタイア寸前の人が続出。しかも、誰が一番先頭にいるのか会場の人が見ても判らないという弱点を露呈した（ちなみに、司会者もルールをよく把握していなかったという噂もある）。問題作成など、企画側は相当の苦勞をされたと思うが、その割に報われない企画であったようだ。どうせなら苦勞ついでに、全問題と最短経路図を参加者全員に配布してしまえば、この企画は使えたかも知れない。

今回はやけにあっさり終わったと思つたら「参加者の一言」がなかった。しゃべり足りない人は懇親会でどうぞという趣向である。毎年恒例となつていたが、あれも一時間くらいで終わつてくれれば花なのだが。

またもや相馬・高坂コンビ

午後六時少し前。テーブルを並べ替え、飲み物、食べ物が運び込まれる。

みなさんお待ちかねの「第三部」の懇親会となる（お待ちかねと思つてゐるのは私だ、という説もある）。難しい挨拶は抜きにして乾杯。会場内の五、六テーブルにして立食形式のパーティーとなる。

看寿賞受賞者の挨拶は恒例である。



さしずめ、アルコールも入って「少しは本音を聞きたい」といった所か。感激の中にも新たな目標という感じの宗岡さん、狙つて作つたと言わんばかりの大橋さん、短編賞と特別賞をもらつて次の狙いはグラッドスラムという浦野さん。各受賞者の話はいずれも「まだ何度でも」というニュアンスであり、今後に希望の持てる言葉であつた（これが文章になると、つい謙遜のつもりで「今後これ以上の作品は創れない」などと書いてしまいがちですよ）。

懇親会のプログラムの中には「女性インタビュー」とある。しかしこれもまた事前に打ち合わせなし、というのが関西流。指導対局をして頂いた鹿野女流、受付を手伝つて下さつた留学生の崔さんなどにマイクが向けられる。

若手グループのテーブルはすぐに食料がなくなつてしまうので、おじさんグループのテーブルから略奪してくる。テーブルをフリーにすると、テーブル

来年の再会を誓う

さて、会場を出ると、お帰りになる近距離組、呑み足りない組、誰か近所の家へ雪崩込み組とはお別れ。それぞれ来年の再会を誓っていた。

しまった。誓っちゃった。

宿泊組は、前述「好日荘」に戻ってきた。とはいっても、前日よりメンパーは増えている。宿泊者の他に「どうせまだ時間あるし、ちよっと寄って行くか」組も含まれているようだ。しかも、会場で残った酒や肴をお持ち込みしてきた。

こうなると、前夜と同じである。否、前日よりすごい。アルコールも十分に蓄積されているし、人が増えて話題のエサ（＝作品）はどんどん出てくる。結局は、ほとんど盤と駒だけを肴にして、延々と午前二時くらいまで呑んでいた。

五月六日（土）

×××も手伝って午前四時半に目が覚めてしまったが、とても起きてどうこうしようという気分になれない（二時に寝て四時半じゃ、寝たとは言わなにかしら）。結局、布団を這い出したのは八時すぎ。

今日もよい天気だ。よい天気で気分も晴れているはずなのに、部屋にこもっている、この酒具さは何ということか。思い出してみれば、2日で延べ一升以上は呑んでいた。皆さんお強い方ばかりで困りますわねえ。

午前九時すぎ。宿を後にして、宿泊組の大半は昨日の朝と同じ喫茶店で朝食。食事をしながらも、まだ話題は尽

きそうになかった。

今日ゴルフを予定している人もいたのだが、その人たちは、早々に出動したらしい。世の中には丈夫な人がいるものだ（後で聞いたら、それでもなかったが）。

よく考えてみたら、今日はなんでもなく、普通の土曜日だった。完全に曜日の感覚がなくなっている。

私の方は何も予定がなく、宿泊組の中で誰か面白そうな所へ行く人がいたら一緒に行くことも思ったが、結局は阪急電車の中で解散となった。

月曜まで休暇予定だった私は単独行動となり、土曜・日曜と京都競馬場に通って旅費の清算にいそしんだ。

懸賞 握り詰 & 記念作

4月号でお知らせした握り詰コンクールに、多数のご応募を頂きありがとうございます。

条件は、アマチュア将棋連盟理事長の西村邦彦氏に握って頂きました。

玉角金銀桂歩歩

応募多数のため一人一作に限定し、30作がアマ連杯の候補となりました。

当日、参加者の投票により表彰されたのが優秀作として①相坂研一氏作、佳作として②大橋健司氏作。

また、当日握り詰としても行われ、次の条件でわずか3時間のうちに9作もの応募がありました。

玉飛角金銀桂桂桂香歩歩

佳作として表彰を受けたのは、③新ヶ江幸弘氏作。

尚、アマチュア将棋連盟より、優秀作に三万円、佳作には各々一万円が授与されました。

④は、大会記念詰将棋として出品された森信雄氏作。

ふるって解答ご応募下さい。

〔締切〕6月末日消印

〔呈賞〕5名

③ 当日握り詰：佳作 入選14回 新ヶ江幸弘

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				香					持駒 なし
				と					
	桂								
王	馬								
	桂		桂	香	香				
と	龍								
				金					

① 大会握り詰：優秀作 初入選 相坂研一

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				香				王	持駒 なし
				馬					
				金					
								歩	
						王			
								歩	
								銀	

④ 大会記念詰将棋 入選8回 森 信雄

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	持駒 角角金
								王	
								香	
							歩		
								王	
								銀	

② 大会握り詰：佳作 入選51回 大橋健司

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						銀			持駒 歩
								と	
角				と				王	
						金			
						桂		銀	

「全詰連」について

全日本詰将棋連盟会長 岡田 敏

5月5日に吹田市千里市民センターで開かれた第11回全国詰将棋大会は102名が出席して盛会裏に終了しました。

大会の準備・運営に尽力された明石六郎実行委員長をはじめ事務局の皆様、本当にご苦労さまでした。来賓の棋士の方々と落語の桂九雀師匠には大会を盛り上げて戴き、心からお礼を申し上げます。また、遠方からはるばる参加された会員諸氏にも感謝いたします。

さて、大会の模様は前号に詳しく紹介された通りですが、平成元年に詰パラ四百号を記念して23年ぶりに名古屋で開かれた第5回大会以来、東京・大阪・百石・四日市・府中・吹田と毎年中部・関東・関西・地方を持ち回りで開催されるようになり、全国の愛好者

の交流がより深まって詰棋界の活性化を促したことは喜ばしいことです。

ところで、この全国詰将棋大会を主催している「全日本詰将棋連盟」について、あるいは「全詰連と詰パラの關係」について充分に認識されていない向きがあるようなので、大会ご挨拶の中でも触れましたが、この際、改めて全読者に説明しておきます。

一、全日本詰将棋連盟の概要

全詰連の誕生と再出発の経緯については詰パラ91年6月号に森田正司氏が詳しく書いておられます。そこにも明記されている通り、全詰連を一言で言えば「詰パラを支援する読者の団体」です。つまり、詰パラの永続発行を望

む全ての定期購読者が会員であり、詰パラから委嘱された幹事がボランティアで運営に当たっているのです。

毎年開かれる全国大会は詰棋愛好者の交流が主たる目的ですが、全詰連の活動報告をする総会も兼ねています。

大会の前日には幹事会が開かれて、会計報告がなされ、年間の運営方針などについて討議されます。この幹事会には会員なら誰でもオブザーバーとして出席し、意見を述べる事が出来ます。

幹事は全国各地に散在しているため、具体的な活動は各委員会ごとに行っており、その状況は詰パラ誌上に都度報告されています。因みに、現在は次の委員会（委員長）が活動中です。

- ① 看寿賞選考委員会（森田銀杏）
- ② 段級位認定委員会（吉田 健）
- ③ データベース委員会（門脇芳雄）
- ④ 詰棋書保存委員会（森田銀杏）
- ⑤ 詰将棋規約委員会（若島 正）

全詰連の運営費用の主なもの、現

在のところ、看寿賞と段位認定免状ですが、その財源は会員有志からの寄付と段位認定料に依存しており、ときたま外部からの作品提供依頼などで潤う場合もあるというのが実情です。

二、詰バラと全詰連の関係

これまでの説明で明らかのように、詰バラと全詰連は雑誌の発行者とその読者団体という関係であり、表裏一体と言うか、車の両輪のようなものです。形式上は「全詰連機関誌」と銘打っているために誤解される向きもあるようですが、全詰連は法人格のない任意団体であり、発行の責任・権限はあくまでその経営者にあります。

また、全詰連が「一人歩き」しているようだという見方が一部にあります。が、水上社長は小役や森田副会長をはじめ各幹事も密接に連携を取り合っており、詰バラの経営に当たっておられるし、全詰連も、詰バラと離れた活動は一切行なっておりません。

なお、従来から全詰連の会則に「本部は詰バラ編集部」と定めてありますが、全詰連に対する詰バラの主体性より発揮できるように、今回の幹事会で水上氏が事務局長に就任しました。

三、全国大会の主催者と名称

次に「全国大会の主催者がよく判らない」という声がありますが、4月号(100頁)の大会案内にも「主催/全日本詰将棋連盟」と明記しており、平成元年の第5回大会(89年5月号)以来、ずっとそうなっています(バックナンバー参照)。ただ、今年3、4月号裏表紙の広告で主催団体が抜けたのは事務局および編集部の手落ちでしょう。

なお、青森での第8回大会は、この時に結成された東北支部が事務局となり、百石町での将棋大会に併催させて貰ったもので、「全国詰将棋大会」そのものの主催はあくまで全詰連です。四日市での第9回大会も同様で、このように相乗りの開催はお互いにプラス

になる方法と言えるでしょう。

また、「全国詰将棋大会」の名称は青森での会場で初めて使われてから踏襲されていますが、マスコミなど一般に広めるには、堅苦しい「全詰連大会」よりも判り易くて良いと思います。

四、全国大会の収支の処理

全詰連が主催するイベントやプロジェクトの収支は、その委員長が責任を持つことにしています。従って余剰金または不足金の処理方法も委員長の裁量です。第10回大会(府中市)のときは実行委員会の新ヶ江幸弘総務担当が収支決算を纏めて森田委員長が承認印を押し、残額の七、八二五円と一緒に小島正司会計幹事に送って全詰連の預金に納められました。このことは幹事会の決算報告でも明らかです。

とにかく、全詰連は営利目的の団体ではないので、その事業はいずれも収支ゼロが理想です。従ってそれぞれの責任者は会員が負担可能な範囲の実費

で計画を立案し、推進しなければなりません。労力や交通費等はもちろん協力者の負担です。ボランティア活動とはそうしたものではありませんか。

以上、全詰連の本質と現状について改めて解説しましたが、関心を持たれた方は、ぜひ先述の91年6月号およびそれ以降の全詰連関連記事を再読し、正しい認識を持って下さい。

最後に全詰連の役割を要約すると、

①詰バラの発行を支援し、その法燈を永遠に絶やさないこと

②全国の詰将棋愛好者の交流の輪を広げ、親睦を深めること

③日本古来の文化として詰将棋を守り育て、社会に正しく認識させることの三つです。再発足以来、幹事をはじめ関係各位の努力で、この目的に向かって、地道ながら一歩一歩前進していると確信します。会員各位の建設的意見と積極参加を望むものです。

平成7年度全詰連幹事会 議事録 (5月4日 吹田市好日荘にて)

【出席者】明石六郎・岡田敏・門脇芳雄・金子清志・川崎弘・小島正司・近藤眞一・佐野公男・清水一男・関半治・水上仁・森田正司・柳田明・柳原裕司・安平昭二・八尋久晴・若島正(以上17名、傍線は新任。欠席〳古関三雄・佐々木聡・角建逸・山田康平)
【オブザーバー】阿部健治・新ヶ江幸弘・藤沢秀樹(以上3名)

【議題】

一、会計報告(小島)

*安平監査役の監査済みの平成6年度決算書および7年度予算書を承認
(年度繰越金は八四三、五三二円)

二、役員改選

*退任〳宇佐見正(死去)、明石六郎

*新任〳川崎弘・柴田昭彦・湯村光造

・吉田健・若島正

三、看寿賞選考経過報告(森田)

*前号参照。賞牌・楯および副賞(一万円、特別賞は五千円)は昨年通り。

四、詰棋書保存委員会報告(森田)

*12月に委員会を開催。佐原義利氏の「詰将棋書目録」を基に7年度中に

総目録を作成の予定。

五、データベースの状況報告(門脇)

*入力委員(阿部幹夫・磯田征一・猪股昭逸・浦壁和彦・小川泰弘・小沢正夫・門脇芳雄・佐藤正・山本剛司・渡辺一芳)の努力で詰バラ40年間の内34年分(約三万題)および旧バラ・近代将棋・将棋世界・大道棋・古図式の約二万題を入力済み。

*公開・配付の会員制度を検討中。

六、段級位規定/解答者の部(明石)

*原案通り本年度から実施。今後は段位の普及に努める。

*宇佐見氏死去に伴い、委員長に吉田健氏が就任。

七、規約委員会(柳田)

*一年間、殆ど活動できず。

*委員長は柳田明氏に替わって若島正氏が就任し、委員に川崎弘・金子清志両氏が加入。

八、事務局の設置

*幹事会の運営・連絡を担当する事務局長に水上仁氏が就任。

九、次回全国大会開催予定

*第12回は北九州市小倉に決定(連休中を予定、実行委員長〳八尋久晴氏)

*第13回は名古屋地区に内定。